

実用的なカリキュラム（『手引書』）の作成について

1. 趣旨

平成22年度に作成した『地域づくり活動のリーダー育成のためのカリキュラム』においては、今後の取組として「本カリキュラムでは、実際に地域で行われている各種の人材力活性化の取組にあてはめながら、より実用度の高いカリキュラムとして、いわば「手引書」となるべく検討を進めていくことを予定」とされたところである。

そこで、より実用的なカリキュラム（『手引書』）の作成をすることとし、先進的な取組を実施しているNPOや地域づくり団体等が実際の現場で行っている人材育成手法と本カリキュラムの内容を比較することで、カリキュラムの内容の具体化を図るとともに、課題点や改善点の把握も行うなど、カリキュラムの充実に係る検討を行うもの。

2. 調査対象

先進的な取組を実施しているNPOや地域づくり団体等 ※3団体程度

調査先（案） 都市型：NPO法人フュージョン長池

集落型：柳谷町内会

等

3. 調査手法

取組の同行取材、ヒアリング、自治大学校等で開催する地域リーダー養成講座の企画・効果分析 等

4. 検討項目

- ①カリキュラムの具体化（『手引書』の作成）について
- ②カリキュラムの課題点、改善点等の整理について
- ③カリキュラムの活用法について

5. スケジュール（案）

7月頃：先進事例が実施する人材育成プログラムの抽出

8月頃：先進事例が実施する人材力活性化講座等の受講・聴講

9月～11月頃：カリキュラムの改善点・拡充点の整理

12月頃：『手引書』素案（人材力活性化研究会にて中間報告、議論）

2月～3月頃：『手引書』の作成

6. その他

上記取組は、当事業の受託業者により実施。